

1. 景気動向

前回調査時と比べ、全業種のほぼ全項目において「悪化」の回答割合が増加傾向にある。調査期間中に大手電子メーカー・大型小売店の整理、民事再生の申請等があり、一層厳しい状況感強まっている。問題点では、需要の停滞、販売(製品)単価の低下・上昇難など、全業種とも共通項目が立ち並んでいる。来期の見通しも暗く、先行きの不透明感が強まっているようだ。

	建設業		製造業		卸売業		小売業		サービス業	
	7月～9月	10月～12月	7月～9月	10月～12月	7月～9月	10月～12月	7月～9月	10月～12月	7月～9月	10月～12月
	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し	今期状況	見通し
売上高										
採算										
資金繰り										
業況										
経営上の当面する問題点	1位	民間需要の停滞	需要の停滞		需要の停滞		大型店・中型店の進出による競争の激化		需要の停滞	
	2位	官公需要の停滞	製品(加工)単価の低下・上昇難		販売単価の低下・上昇難		需要の停滞		利用者ニーズの変化への対応	
	3位	請負単価の低下・上昇難	製品ニーズの変化への対応		代金回収の悪化		購買力の他地域への流出		利用料金の低下・上昇難	
業種別コメント	前回調査時と比べ、資金繰りで「好転」割合が微増した他、売上、採算などでは引き続き「悪化」傾向にある。やはり、官公・民間需要の停滞が大きな問題となっているようだ。		企業の倒産・廃業等が多少影響し、受注量の増加があったものの、単価下落などがあり、昨年同期同様の受注量であるが、厳しい状況にあるようだ。また、材料仕入単価は「上昇」の回答割合が増えており、採算の悪化要因になっている。		引き続き消費の低迷による売上の減少と価格競争による、販売価格の上昇難で、一層厳しい状況にある。先行きも暗く、来期の見通しは、全項目で「好転」の回答がなく、深刻な状態にある。		前回調査時から数字の変化はあまりなく、引き続き極めて不振が立ち並ぶ結果となった。消費の低迷が続く中、大型小売店の閉店もあり、購買力の他地域への流出も大きな問題となっている。		サービス業だけは、前回調査時よりも「好転」の回答割合が増加している。8月の猛暑で売上が伸びたという声があったが、これから年末にかけて、デフレ志向の競争・客単価の下落など先行きは依然として厳しいようだ。	

* 表中の天気図はD・Iを以下のように分類したものです。



当所では分析にあたってD・I(好転したとする企業割合から悪化したとする企業割合を差し引いた値)を採用しました。